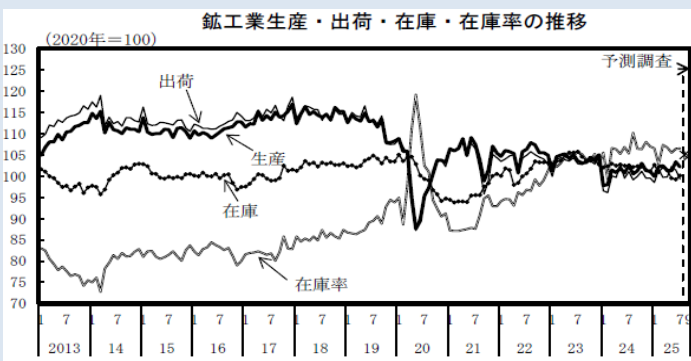
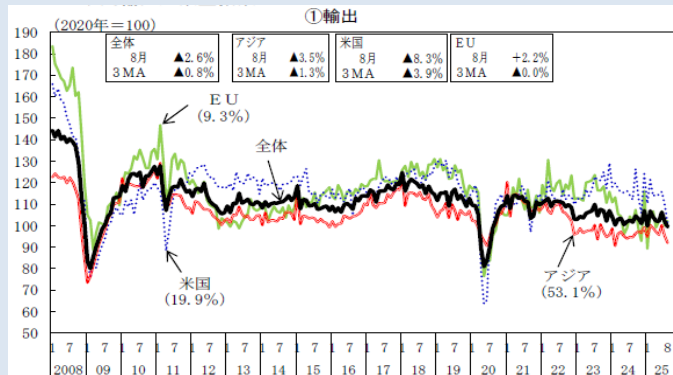
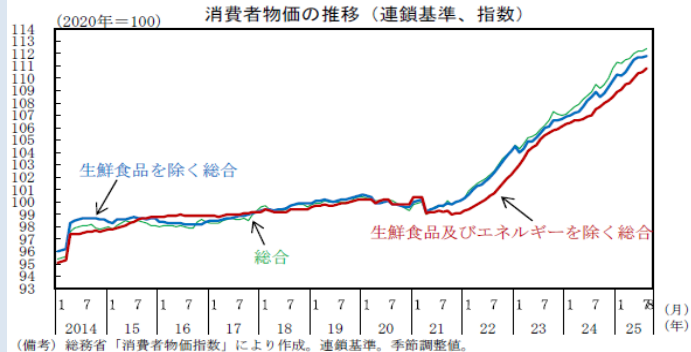


| 月例経済報告（2025年10月）

● 月例経済報告（9/29）

基調判断	(10月) 景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。 (9月) 景気は、米国の通商政策等による影響が一部にみられるものの、緩やかに回復している。 先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクには留意が必要である。加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。
個人消費	(10月) <u>持ち直しの動きがみられる。</u> (9月) <u>消費者マインドの改善に遅れがみられるものの、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、持ち直しの動きがみられる</u> 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2015年=100) 名目総消費動向指数（CTIマクロ） 実質総消費動向指数（CTIマクロ） 名目総雇用者所得 実質総雇用者所得① 実質総雇用者所得② 7月 名目 ▲0.0% 実質 ▲0.0% 7月 名目 ▲0.8% 実質① ▲0.8% 実質② ▲0.8% 実質①→家計最終消費支出デフレーター 実質②→家計最終消費支出（除く持ち家の借家賃支出）デフレーター
設備投資	(10月) <u>緩やかに持ち直している。</u> (9月) <u>持ち直しの動きがみられる。</u> 製造業・非製造業の設備投資（名目額） (兆円) 非製造業 ソフトウェア投資（目盛右） 製造業
住宅建設	(10月) 建築物省エネ法等改正に伴う駆け込み需要の反動もあり、このところ弱含んでいる。 (9月) 建築物省エネ法等改正に伴う駆け込み需要の反動もあり、このところ弱含んでいる。 住宅着工戸数（季節調整値） (年率、万戸) 7月 71.2 万戸 3 MA 62.9 万戸
雇用情勢	(10月) 改善の動きがみられる。 (9月) 改善の動きがみられる。 雇用者数、就業者数、就業率の推移 (万人) (%) 就業者数 7月：6,831万人 雇用者数 7月：6,198万人

生産	(10月) 横ばいとなっている。													
	(9月) 横ばいとなっている。													
輸出	(10月) おおむね横ばいとなっている。	 <table data-bbox="764 524 1219 591"><tr><th>全体</th><th>アジア</th><th>米国</th><th>EU</th></tr><tr><td>8月 ▲2.6%</td><td>8月 ▲3.5%</td><td>8月 ▲8.3%</td><td>8月 +2.2%</td></tr><tr><td>3MA ▲0.8%</td><td>3MA ▲1.3%</td><td>3MA ▲3.9%</td><td>3MA ▲0.0%</td></tr></table>	全体	アジア	米国	EU	8月 ▲2.6%	8月 ▲3.5%	8月 ▲8.3%	8月 +2.2%	3MA ▲0.8%	3MA ▲1.3%	3MA ▲3.9%	3MA ▲0.0%
	全体		アジア	米国	EU									
8月 ▲2.6%	8月 ▲3.5%	8月 ▲8.3%	8月 +2.2%											
3MA ▲0.8%	3MA ▲1.3%	3MA ▲3.9%	3MA ▲0.0%											
(9月) おおむね横ばいとなっている。														
国内企業物価	(10月) このところ横ばいとなっている。													
	(9月) このところ上昇テンポが鈍化している。													
	(10月) 上昇している。	 (備考) 総務省「消費者物価指数」により作成。連鎖基準。季節調整値。												
	(9月) 上昇している。													
海外経済	(10月) 世界の景気は、持ち直しが緩やかになっており、一部の地域において足踏みがみられるほか、米国の通商政策による不透明感がみられる。先行きについては、通商政策による影響の広がりから、持ち直しの動きが弱まる可能性がある。また、今後の通商政策など米国の政策動向による影響等による下振れリスクや金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。													
	(9月) 世界の景気は、持ち直しているが、一部の地域において足踏みがみられるほか、米国の通商政策による不透明感がみられる。先行きについては、通商政策による影響の広がりから、持ち直しの動きが弱まる可能性がある。また、今後の通商政策など米国の政策動向による影響等による下振れリスクや金融資本市場の変動の高まりの影響等に留意する必要がある。													

月例経済報告：内閣府